

地域・社会とともに

1995年から本格的に始まった社会貢献活動。「全社員が年に1回はボランティアに参加する」を合言葉に、社員が自主的に参加しやすいようにボランティア担当者が案内をしています。

また、地域との関わりを深めるために、本社や各事業拠点が所在する地域のイベントなどにも参加させていただいています。



ワタミグループ社員一人ひとりが行う社会貢献

ワタミグループは、社会的使命(責任)を果たすためにも、「良き企業市民」として社会とともに生きる企業を目指し、グループをあげて社会貢献活動を実践していきます。

ワタミグループは、社会貢献活動やボランティア活動とは「何かをしてあげるのではなく、何かをさせていただくことにより学び、感動し、結果として成長させていただくこと」だと考え、社員一人ひとりが、自発的・継続的に社会貢献活動を行うことを推奨しています。

活動は、「グローバル&ローカル」を基本に、地球規模的視点で捉え、かつ地域密着型で実践、推進し、「できるところからコツコツ」という考えのもと、「無理をせず、確実に継続すること」を重視しています。

「ボランティア研修」の実施

[1994年~]

1994年4月に、横浜ボランティア協会のご協力をいただき、新入社員が地域の作業所を訪問し、ボランティア活動を行うプログラムを導入、以来、新入社員の入社時研修として毎年4月に「ボランティア研修」を実施しています。

「ボランティア研修」とは、障がい者福祉施設や児童福祉施設を訪問させていただき、ボランティアを通じて「相手の立場に立ち、相手がしてほしいことをすると、ということなのか」を学ばせていただくことを目的としています。

訪問した社員は、職員の方に教わり、障がいをもった方と一緒に作業を行ったり、交流を図りながら一日を過ごします。

2012年度は、51の施設に受け入れていただき、新入社員267名が参加しました。

福祉施設開催のバザーへの参加

[1995年~]

ワタミグループは、1995年に福祉施設開催のバザーに屋台を出店して以降、継続的にバザーに参加しています。

2011年度は18回、218名の社員が参加しました。また、2012年5月には、お食事会で毎年交流がある横浜訓盲院様が初めて開催された夏祭りに参加させていただき、お好み焼の屋台を出店しました。



バザーへの屋台出店

ワタミふれあいカードからの寄附

[1996年~]

1996年度より「未来の子どもたちのために」をテーマに発行した「ワタミふれあいカード(クレジットカード)」を通じて、国内ワタミグループ外食店舗での利用総額の1%相当を社会貢献に使用させていただいています。

2011年度は、ご利用総額293,603千円の1%相当となる4,345千円を公益財団法人SAJに寄附させていただきました。



お食事会の開催

[1999年~]

ワタミグループは、1999年の7月と9月に横浜訓盲院、横浜援護授産所の方々をお迎えして、初めてお食事会を開催しました。以来、ハンディキャップがあるなど社会参加の少ない方を外食店舗にご招待し、「お食事会を通じた交流会」を開催しています。嚥下障がいのある方には、ソフト食を提供させていただいています。

2011年度は、お食事会を46回行い、887名の社員がボランティアとして参加しました。

この活動を通して、サービスの原点であるホスピタリティを学び、一人ひとりが、「相手の喜びを自分の喜びに変える」ことの意味を実感できるような機会をいただいています。



集合写真



マジックを披露

授産品代行販売

[1999年~]

ワタミグループは、1999年6月より、障がいをもった方々の社会参加の後押しを目的に、居食屋「和み亭」やごちそう厨房「饗の屋」にショーケースを設置し、「授産品」の販路を広げるお手伝いをさせていただいています。

2011年度は、15店舗にて422千円を代行販売させていただきました。

また、2005年度より、定時株主総会で授産品を販売するスペースを用意させていただいています。2012年度の株主総会では、13施設の方に参加していただき、また、10施設の授産品をワタミグループが代行販売させていただきました。



株主総会での授産品販売の様子

わたみ北海道自然学校の開催

[1999年~]

ワタミグループは、1999年より毎年夏季に、小学校4~6年生を対象としたふれあいイベント「わたみ北海道自然学校」を開催しています。

この学校は、子どもたちのもつ「思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の心、素直さ」など、「人間が本来もっている美しい資質」を高める「きっかけ」を提供できたらとの思いから始まったイベントで、毎年「命、自然、友だち、生活習慣、夢との出会い」をテーマに行われています。また、参加した子どもたちには、自らの夢を綴った「夢作文」を書いてもらい、一人ひとり発表する時間を設けています。

第14回目となる2012年度は、北海道久遠郡せたな町にて、8月7日~10日の3泊4日で開催しました。子どもたち36名と、スタッフとしてワタミグループ社員や自然学校参加者のOG15名が参加し、ハイキングやワタミファームでの野菜収穫、搾乳、海洋スポーツなどを体験してもらいました。

第14回わたみ北海道自然学校に参加した、小学5年生 齋藤月花さんの作文を紹介します。

私の夢

私には、夢が何個もあります。ですが、その中で一番かなえたい夢が、一つだけあります。それは、母と一緒に海辺でレストランを開くことです。

なぜ、私は一人ではなく母と一緒にお店を開きたいかというと、それは母の夢だったからです。母は、料理をすることが得意なので、それを私に手伝ってほしいと言っていたのです。私は、いいよと答えてから、それが私の夢にもなりました。

この夢は、もし母が私の母でなければ、私の夢にはなっていませんでした。私は、なぜ自分の夢ではなく母の夢をかなえたいと思ったのでしょうか。それは、私を今まで育ててくれて、学校にも入れてくれて、こんなにいい経験を与えてくれた、おん返しにしようと思ったからです。母のこの先の人生はきっと、私より長くないだろうと思うから、その最後にくる前に、母の夢をかなえてあげたかったからです。

この自然学校で学んだ、親は大切だということが、とても心にのこっています。だから、私はなるべく毎日「ありがとう」「ごめんなさい」を母に沢山言うように心がけています。このありがとうとごめんなさいを通じて、もっときずなを深めて夢がげんじつになるように、努力して、苦勞して、母以上にみんなに愛情を注げるように、がんばります。これで、けっして大きくない一歩だけれど、夢がかなったときに役にたつ一歩をふんだと思います。



わたみ北海道自然学校集合写真 (ワタミファーム瀬棚農場にて)



海洋スポーツ

地域・社会とともに

農業インターンシップ

[1999年~]

WFSは、1999年度より、学生を対象に「農業インターンシップ」を実施してきました。農業インターンシップの目的は、単なる収穫の補助だけでなく、日本の農業に対する理解の促進や、若者に「働くこと」「自然」「農業」「仲間」と向き合う機会を提供することを目的として実施しています。

2011年度は、帯広大正農協様をはじめ、31戸の農家の方々のご協力を得て、農産物の収穫や箱詰め作業などの農作業を実施し、53名の学生に参加していただきました。

ワタミファームでの学生や法人の受け入れ

[2004年~]

ワタミファームは、2004年度より、有機農業への理解促進を目的として、学生や法人の受け入れを行っています。

2011年度、ワタミファーム瀬棚地区では、郁文館夢学園の修学旅行を受け入れさせていただきました。中学生196名に來場していただき、牧場での搾乳や畑での作付作業を体験していただきました。また、地元の高等養護学校の実習として15名を、授産施設の就学支援実習として3名を、それぞれ受け入れさせていただきました。

ワタミファーム千葉北総地区では、郁文館夢学園の農業実習として、中学1年生200名を受け入れさせていただきました。また、種苗メーカー様を講師に招き、毎月2回、実施している技術習得会には、地元の新規就農者の方にもご参加いただいています。

介護ボランティアの実施

[2006年~]

ワタミグループは、2006年度より、主に外食事業の社員を対象として、ワタミの介護の介護施設で行う「介護ボランティア」を開始しました。「介護ボランティア」では、介護施設で行われるイベントやアクティビティに参加したり、ご入居様のお食事に一緒にさせていただきます。

ボランティアに参加した社員の感想

【お食事会に参加した社員より】

食事されることを心から楽しみにされている皆様の笑顔を見ることができて、自分が飲食店で働くことの意味・目標・夢の再確認ができました。

【バザーに参加した社員より】

みんなが一つになり、心が熱くなるほどに達成感を強く感じました。バザーを通して、こちら側が元気をいただきました。

【ボランティア研修に参加した新入社員より】

施設の方の熱い思いに学ばせていただきました。「何とかしたい、どうしたらもっと良くなるのか」、この姿勢を忘れてはいけないのだと感じました。

海外での取り組み

□ボランティア活動

海外では、ワタミインターナショナルが主導して、積極的に社員のボランティア活動を支援しています。

お食事会を通じた交流会の開催や、老人養護施設への訪問、海岸・公園での清掃活動など、社員が積極的にボランティアに参加できるような機会を設けています。

2011年度は、593名の社員がボランティア活動に参加しました。

また、国内と同様、SAJの活動を支援しており、寄附による支援の他、カンボジアの孤児院や学校を訪問するツアーを開催、2011年度は28名が参加しました。



清掃活動



ボランティア活動での集合写真

□ワタミふれあいカードからの寄附

国内と同様、海外でも「ワタミふれあいカード」を発行しており、ご利用金額の一部を寄附させていただきます。

和民(中国)有限公司、和民餐飲(深圳)有限公司は、香港、深圳のワタミグループ外食店舗でのご利用総額のうち0.25%相当を社会貢献活動を行う団体へ毎年寄附しています。

台湾和民餐飲股份有限公司は、2005年11月の開店当初よりワタミふれあいカードを導入しており、台湾のワタミグループ外食店舗でのご利用総額の1%相当を社会貢献活動を行う団体へ寄附しています。



香港のカード



台湾のカード

地域イベントへの参加

ワタミグループ本社の所在する大鳥居では、ワタミ(株)社員を中心に、町内会が開催する清掃活動(駅前清掃、スポーツGOMI拾い大会)や夏祭りなどへ参加させていただいています。

また、外食店舗、介護施設、宅食営業所、ワタミ手づくり厨房などでは、商店街のミーティングや地元のお祭りへの参加など、それぞれの地域の活動に参加しています。

今後は、ワタミグループ全事業拠点における町内会への参加を通して、地域に密着した企業活動を展開していくことを目指します。(一部、実質の町内会活動のない地域を除きます。)



スポーツGOMI拾い大会

□「自然体験ツアー」への協力

ワタミグループは、2011年11月、青少年対策羽田地区委員会主催の「自然体験ツアー」に協力させていただきました。当日は、参加した30名の小学生の子どもたちに、ワタミファーム山武農場で野菜の収穫を体験してもらい、有機農業について説明していただきました。

また、ワタミグループが支援するRFLの協力のもと、「ワタミの森」にて間伐や植樹も体験していただきました。

ワタミグループは応援します。 「School Aid Japan」の支援

ワタミグループは、開発途上国の子どもたちへの教育支援を行う公益財団法人 School Aid Japanの活動を全社員で支援しています。▶ 活動内容は、P48~49をご覧ください。



ワタミグループの支援内容

- 外食店舗、介護施設、宅食営業所での募金箱設置
…2011年度寄附金額 2,249千円
- 従業員が給与天引きで寄附できる体制の構築
…従業員からの2011年度寄附金額 37,461千円
- ワタミグループによる法人会員寄附
…2011年度寄附金額 720千円
- 株主総会(経営説明会)における
ブース出展スペースの提供
- 全体会議および研修会における
取り組みの説明機会の提供
- 活動報告月刊誌「スマイル通信」
「Dream通信」「SAJ Farm通信」の発信
- アースデイにおけるブース出展スペースの提供

社員向けSAJ・カンボジア視察ツアーの開始

2011年6月、ワタミグループは、グループ社員を対象とした「社員向けSAJ・カンボジア視察ツアー」を開始しました。カンボジアを訪問し、国内の現状や過去の歴史に触れるとともに、SAJが運営する孤児院や農場、建設した学校での学習の様子、朝給食の様子を見学します。SAJの支援活動に対する理解を深めてもらい、その社員が自らの言葉でSAJの活動を伝えていくことによって関心の輪を広げることが目的です。今後も1年に2回、継続してこのツアーを開催していきます。



孤児院「夢追う子どもたちの家」の見学



孤児院「夢追う子どもたちの家」での食事

地域清掃・美化活動への参加

WFSは、毎日の外食店舗周辺の清掃に加え、各地で開催される定期的な清掃にも参加しています。

WTMDでは、「地域に根ざした活動を行う」ことを目的として、研修が行われる際に、定期的にワタミ本社ビルの前やワタミ手づくり厨房付近の清掃を行っています。

ワタミファームでは、道路や圃場と隣接する場所など、地域の方々との共有スペースの除草作業などに積極的に参加させていただいています。

「エコフェスタ ワンダーランド」への参加

ワタミグループは毎年、子どもたちが環境について考えるきっかけづくりとして大田区の小学校で開催される「エコフェスタ ワンダーランド」に参加しています。2011年2月は、有機食材を使ったおでんを提供させていただいた他、有機野菜に関するクイズブースを出展しました。



エコフェスタに出展したクイズブース